

【事業報告】

事業の概要

<公益目的事業>

I 社会経済史・経営史関連事業

- (1) 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第53号(2019年)を刊行した。
- (2) 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加(発表)、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加なども行った。
- (3) 三井越後屋の仕入・販売関係並に奉公人関係資料、三井鉱山関係資料、旧三井物産をはじめとする戦前期日本企業在外支店関係資料などの調査・収集を進めた。
- (4) 資料の保存と利用のため、資料のデジタルスキニングによる複製作成を進めた。書庫内の資料保存環境整備を進めた。
- (5) 三井鉱山本店資料の新規(追加)公開を行った。
- (6) 所蔵資料分類目録の整備、所蔵図書目録のデジタルデータベース化などを進めた。
- (7) 公的諸機関(地方自治体史編纂等)の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
- (8) 賛助会社向けならびに一般向けの講演会等に講師を派遣した。
- (9) 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。
- (10) 三井文庫史料叢書「三井大坂両替店『聞書』2」の校正作業を進めた。
- (11) 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付(4件)を受け研究を進めた。

II 文化史・美術館関連事業

A. 文化史関係(資料の保管整理研究事業)

- (1) 特別展図録の発行で執筆の協力をした。
 - 特別展図録『日本の素朴絵—ゆるい、かわいい、たのしい美術—』(NHKプロモーション 7月発行)
 - 特別展図録『小村雪岱スタイル—江戸の粋から東京モダンへ』(浅野研究所 12月発行)
- (2) 展覧会図録を作成した。
 - 特別展図録『大用国師二百年・釈宗演老師百年大遠諱記念特別展 鎌倉禅林の美 円覚寺の至宝』(三井記念美術館 4月発行)
 - 特別展図録『茶の湯の名碗「高麗茶碗」』(三井記念美術館 9月発行)
 - 図録『国宝 雪松図と明治天皇への献茶』(三井記念美術館 12月発行)

- (3) 『三井美術文化史論集 第13号』を発刊した。
- (4) 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として、2014年9月17日より認定されていたが、2019年9月16日で5年間の認定期限が切れるため、7月27日付にて申請書類を提出し、8月14日付で承認証が届き、2019年9月17日から2024年9月16日までの5年間、公開承認施設として認定された。なお、この認定に際し、4月・6月・9月の展示替え期間中の各4～5日を展示ケース内クロス張替工事および排気ファン取り付け工事を行い、ケース内に発生する有害ガス濃度を、認定の基準値以下に下げることができ、それによって公開承認施設の認定が下りた。
- (5) 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。
- (6) 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。
- (7) 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付を受け、研究を進めた。
- ①基盤研究(C)「近代の牙彫に関する基礎研究－安藤緑山の彩色牙彫を中心に」
(研究代表者・小林祐子)平成31年度104万円(間接経費を含む)
- ②基盤研究(B)「能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究」
(研究代表者・浅見龍介：東京国立博物館、研究分担者 海老澤るりは)平成31年度10万円

B. 三井記念美術館関係(資料の公開事業)

- (1) 今年度は、下記の6回の展覧会を開催したが、2019年4月1日から2020年3月31日までに合計121,874人が入館した。2005年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,368,203人となった。
- ①「三井家のおひなさま 特別展示 人間国宝・平田郷陽の市松人形」(前年度より引き続き開催)
(2019年4月1日～4月7日) 入館者数 2,282人
- ②「大用国師二百年・釈宗演老師百年大遠諱記念特別展 鎌倉禅林の美『円覚寺の至宝』」
(2019年4月20日～6月23日) 入館者数 34,987人
- ③「特別展 日本の素朴絵—ゆるい、かわいい、たのしい美術—」
(2019年7月6日～9月1日) 入館者数 31,415人
- ④「特別展 茶の湯の名碗『高麗茶碗』」
(2019年9月14日～12月1日) 入館者数 32,376人
- ⑤「国宝 雪松図と明治天皇への献茶」
(2019年12月14日～2020年1月30日) 入館者数 16,215人

⑥「三井家のおひなさま 特別展示 かわいい御所人形^{ごしよ}」

(2020年2月8日～3月31日) 入館者数 4,599人

※会期終了日 2月28日(本来は4月5日までであったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月29日より4月5日まで臨時休館とした。)

- (2) 各展覧会に関連し、小・中学校の教職員研修会、親子鑑賞会、小中学生・高校大学生等を対象とする教育普及活動に積極的に取り組んだ。
- (3) 土曜講座・展示解説など、一般客を対象とした普及活動を行った。また、中央区の要請を受け、区民対象の生涯学習の場として「中央区民カレッジ」(合計5回)を前年に引き続き開催し、地域の文化振興に寄与した。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、老朽化した玄関と水屋の屋根を中心に、「残月の間」と浴室棟廊下の外壁修繕工事を実施した。

「公開」に関しては、2019年11月に外部講師として高橋秀和氏(箱根町立郷土資料館学芸員)を招き、「昭和戦前期の箱根における観光振興策－箱根振興会の活動を通じて－」をテーマに研究会を実施し、上山和雄氏(横浜都市発展記念館館長、國學院大學名誉教授)、老川慶喜氏(跡見学園女子大学教授)、瀧澤久嘉氏(前三井文庫事務局次長)のほか、三井文庫職員6名、計9名が参加した。

<収益事業>

I. 不動産賃貸事業

三井花桐ビルは、現在は全フロア満室となっている。契約更新に伴い賃料を上げた。また、今年度は給排水管抜管調査、中央監視装置部品交換、加湿器用給水パン交換、受変電設備改修工事等を実施した。

<事務局関係>

I. 役員会・役員人事

2019年6月20日開催の評議員会において、同日をもって任期満了となる理事および監事の改選を諮ったところ、石塚邦夫理事の後任として、赤松憲氏(株式会社三越伊勢丹ホールディングス代表取締役会長)を新たに選任し、その他の理事9名および監事2名の重任が承認された。

また、退任の申し出があった芳賀義雄評議員の後任として馬城文雄氏(日本製紙株式会社

代表取締役社長)を、進藤清貴評議員の後任として矢嶋進氏(王子ホールディングス株式会社代表取締役会長)を評議員に選任することが承認された。

2019年6月21日に開催された理事会において、20日に選任された理事のうち、末松謙一氏が代表理事・理事長に、岩沙弘道氏が代表理事・副理事長に、槍田松榮氏が代表理事・副理事長に、由井常彦氏が業務執行理事(常務理事・文庫長)に、清水眞澄氏が業務執行理事(三井記念美術館館長)にそれぞれ選定された。

II. 総務・人事関係

2019年7月に三井記念美術館運営部に契約職員1名を雇用した。